

# 令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

一般社団法人 学士会

## 令和3年度事業報告並びに決算報告について

### I. 令和3年度事業報告（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

#### 事業概況

令和3年度も、前年度同様に事業報告を行うにあたり「コロナ禍」の影響—「新型コロナウイルス感染症」のまん延による本会会務への影響—について触れざるを得ません。

令和3年度においても今般の「コロナ禍」は、早期収束を切望する私たちの期待を裏切るかたちで第5波、第6波と続き、前年を遥かに超える感染者数の発表を私たちは毎日のように耳にすることになりました。そのため、本会を取り巻く経営環境・事業環境も大変に厳しい中で推移し、本会にとって令和3年度は前年度に引き続き大変厳しい一年となりました。

東京都においては、事業年度の殆ど全期間を通して「緊急事態宣言」或いは「まん延防止等重点措置」の下におかれ、学士会館の経営悪化はもとより、恒例の講演事業（午餐会・夕食会等）を始めとして各種予定イベントの多くが中止、延期又は規模の縮小を余儀なくされました。

新入会者の獲得に大きな役割を果たして来ました七大学における卒業式（修了式）当日の「入会勧誘活動」も、大学側の事情により3年続けて思うような取り組みが出来ず、その結果、新入会者の大幅減に繋がると共に、会員数の減少に歯止めをかけることも叶いませんでした（12頁の「会員」の項を参照ください）。

本会ではこの厳しい状況への対応と共に、学士会館の整備問題にも関連させて“学士会のこれから”を検討するための委員会（「学士会 今後のあり方検討委員会」）を理事会の下に設け、様々な角度から検討を行って来ました。これらを踏まえ、会員の皆さまの率直なご意見を伺うべくアンケートも実施させて頂いております。この結果はあらためて皆さまに報告をさせていただきます。

新年度を迎え、新規感染者数は目に見えての減少とはなっておりませんが、“ウィズコロナ”が少しずつ定着化してきたこともあり、本会を取り巻く事業環境も徐々に改善の兆しが見え始めています。本会ではコロナ禍の中でその利便性や有効性が顕著になって来ましたICTの積極的活用—デジタル化の推進による事業の活性化を進めながら、新年度には“回復”への足掛かりを築けるよう取り組んで参ります。

以下、令和3年度の実施事業についてその概要を報告致します。

令和3年度の本会は、取り組むべき重点課題として以下の4点を掲げ、「コロナ禍」による活動の制限を受けながらも当該課題に対する取り組みを行うと共に、定款に掲げる各種事業を実施してきました。

令和3年度の各事業の実施状況は後段にて詳述致しますが、以下、重点課題に対する取り組み結果について報告致します。

#### (1) 学士会館の再開発問題に向けた本格的活動の展開・推進

本課題に対する実施状況は、令和4年3月17日開催の令和3年度臨時代議員総会において報告された内容（「学士会館の再開発問題に関する取り組み経緯及び今後の対応方針について」）の通りですが、本年度も『学士会館の整備に関する基本方針』（平成31年3月 代議員総会において承認）に基づき「共同開発」を目指して隣地所有者との交渉を継続して行って来ました。然しながら、平成31年3月以降、2年半以上に亘り続けて来ました隣地所有者との共同開発協議は、先方都合により令和3年9月をもって終了することになり、現状の隣地所有者との共同開発計画は、一旦、白紙に戻ることになりました。

理事会では、隣地所有者との共同開発協議の終了（共同開発の不調）を受け、今後の対応として、当面は以下の方針で臨むことを決定致しました。

- (1) 学士会館の整備に関する基本方針で定めた通り「学士会館の再開発」は推進していく。
- (2) 隣地との「共同開発」の可能性が残るのであれば、本会の主張・立場は明確にしつつ、共同開発に向けての取り組みは継続していく。
- (3) 「共同開発」の検討と並行して、本会独自の「単独開発」についても検討を進め、具体的な単独開発案の立案と実行可能性についての検証を行っていく。

なお、令和3年度末の時点では隣地の動向は不透明であり、「共同開発」の可能性は流動的でしたが、新年度に入り新たな動きが出て来ました。本件に関しましては、現状及び今後の対応等について別途説明させていただきます（本代議員総会第4議案参照）、本会と致しましては、「共同開発」に向けた基本原則の確認、コロナ禍による再開発計画への影響の検証、共同事業を行う場合の事業スキームの整理、本会内部の推進体制の整備等を行いながら、共同開発の実現に向けての積極的な取り組みを継続して参ります。その上で、本問題に関し重要な意思決定が必要となる場合は、理事会の決議や定款の定めるところにより、代議員総会に諮りその承認を得るなど、所要の手続きを踏みながら慎重に進めて参ります。

## (2) 本会の魅力作りに向けた活動の展開・継続実施

会員にとって本会の存在や活動を一層魅力あるものにするため、『學士會會報』や講演会（午餐会・夕食会等）の企画に際しては、会員にとって興味・関心の高いテーマの選定に努めると共に、魅力ある執筆陣・講師陣の人選に努めて参りました。また、会員各層のニーズに応えるべく、当該会員にとって魅力のあるプログラムの開発・提供にも学士会館ともども取り組んで来ました。然しながら、後述の通り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、「午餐会・夕食会」においては、開催16回のうち、食事提供を取りやめ講演会のみで開催した回が9回と半数を超える結果となりました。その他、各種会員向けイベントについても予定を大幅に変更せざるを得ない状況となりました。

一方、今年度は関係大学や関連同窓会の皆さまの尽力を得て、地域講演会（北海道・名古屋・東北）のオンライン開催を実施し、遠隔居住者を含む多くの会員の参加を得ることが出来ました。

また、会員ニーズに応えるべく、本会事業のデジタル化の一環として前年度より開始した『会員氏名録』にかわるデジタル版会員名簿「Web名簿閲覧システム」の定着化や講演会（午餐会・夕食会）の録画配信の視聴者拡大にも努めて来ました。更には、新たな試みとして初心者向けに始めた「Zoom体験会」も好評の内に回を重ね、その参加者の中から会員同士の「Web交流会」が生まれ、また、「Webサロン」に繋がるなど、新しい形の会員交流がスタートすることになりました。今後とも会員同士の“コミュニティー活動”を支援して参ります。

## (3) 会館事業の収益改善—赤字幅の縮小

本会にとって学士会館の経営は、本会の事業活動を経済的に支えている最も重要な事業となりますが、その運営は本会の100%子会社である（株）学士会館精養軒が担っております。

今般のコロナ禍により、集宴会事業・婚礼事業・宿泊事業・レストラン事業のいずれもが大きな痛手を被り、令和3年度の売上はコロナ禍前の水準の35%程度まで落ち込みました（前年度は23%）。その結果、営業利益は、前年に比べて3億円近い改善を果たしたものの1億円を超える赤字を計上することになりました。一方、経常利益においては、各種補助金収入の恩恵もあり6千万円超の黒字を計上することが出来ました（前年度は3億円超の赤字）。但し、この実績は、国及び東京都からの補助金や本会への納付金免除という“救済措置”を受けてのものであり、実質的には黒字達成とは言い難い状況です。令和4年度においては、引き続き経営努力を重ね、営業利益においても黒字を達成できるよう努めて参ります。

#### (4) 会員増強に向けた取り組みと七大学及び関連同窓団体との良好な協力関係の維持・協働事業の実施

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環として七大学において卒業式・修了式への参加者が限定され、例年のような卒業生・修了生に対する組織的な入会勧誘活動が実施できないという事態となり、前年度に引き続き思うような新入会者の獲得には繋がりませんでした。

一方、各大学の理解・協力を得て進めてきました新入学生に対する「学生会員」への入会勧誘活動は本年度も活発に行う事ができ、多くの入会者（登録者）を得ることが出来ました（817名）。

平成29年度より実施している卒業生・同窓会を所管する各大学の責任者・関係者による意見交換会（「七大学同窓会担当事務局連絡会議」）を12月に開催し、本年度は卒業生向けイベントにおけるオンライン（ハイブリッド）開催での工夫や卒業生との連携強化について、忌憚のない意見交換・情報交換を行うことが出来ました。

以下、各事業別にその概要を報告致します。

### 1. 会 報 （ 『學士會会報』 及び 『NU7』 ）

本会会報である『學士會会報』と『NU7』を隔月に同時発行致しました。『學士會会報』は第948号を令和3年5月、第949号を7月、第950号を9月、第951号を11月、第952号を令和4年1月、第953号を3月にそれぞれ発行し、全会員に配布致しました。また、『學士會会報』は七大学各学部図書館に寄贈する他、国立国会図書館や各県立図書館等へも毎号寄贈し、本会の目的でもある“学術的文化的知識の交流普及”に努めました。

七大学総合情報誌として平成27年9月より発行している『NU7』は、第35号を令和3年5月、第36号を7月、第37号を9月、第38号を11月、第39号を令和4年1月、第40号を3月にそれぞれ発行し全会員に配布すると共に、七大学関係者にも広く配布し、会員増強に資するよう努めました。

また、昨年度より、希望する学生会員へ『學士會会報』と『NU7』の配布をしており、現在、約250名の学生会員に配布をしております。

### 2. 学 士 会 館

(1) 会館の利用実績は次の通りです。

□会議室利用回数	2,292回	(1,209回)	※カッコ内は前年度の実績
□会議室利用人員	36,764名	(26,160名)	} ※延べ人数 計 130,858名 [1日平均367名] 臨時休業日・年末年始を除く
□宿泊室利用人員	3,058名	(2,187名)	
□レストラン等利用人員	82,602名	(66,031名)	
□読書室利用会員	1,848名	(1,362名)	
□会員倶楽部室利用会員	6,586名	(5,928名)	

(2) 会館を適切に維持・保全するために、次の通り会館の補修・改修工事を行いました。

本年度もコロナ禍による学士会館営業収入の減少（財務悪化）を踏まえて、当投資目的となる改修工事などの実施は見送りましたが、会館営業に必要な最小限の諸工事を以下の通り実施しました。

- ・「二色 二の丸窓上」、「203号室天井」、「4階 共用廊下天井」各漏水箇所の補修工事
- ・「エスカレーター」修理工事
- ・「二色厨房」、「宴会・紅楼夢厨房」各排水ポンプの修理・交換工事

上記の他にも、会館営業に支障をきたす事項に対しては、適宜補修工事等を実施しました。

(3) 学士会館の防火防災対策の一環として、次の通り実践的な防火防災訓練等を行いました。

- ・総合防災訓練の実施（11月）
- ・深夜における大地震と火災発生を想定した、学士会館従業員への災害時対応訓練を実施（3月）

(4) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、前年度に引き続き以下の対応をしています。

- ・来館者向けに「体温測定器（顔認証）」を南北玄関に設置
- ・毎日、館内各所の定期消毒を継続して実施

### 3. 講演会、談話会、その他の集会

本年度は、残念ながら予定をしていた各種イベント・企画の多くが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策（以下「新型コロナ感染対策」）の一環として中止や延期となりました。以下には中止となりましたイベント等の一部もその旨を注記した上で記載しております。

#### (1) 午 餐 会

本年度は次の通り、各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催しましたが、8月と12月の休会（例年通り）以外にも、講師都合による休会が6月、1月、3月に発生し、また4月、5月、7月、9月、2月については食事提供を取りやめ、講演会のみで開催に変更しました。延べ641名の参会がありました。

アジア経済の展望と中国との向き合い方	中 尾 武 彦 氏（令和 3年 4月例会）
日本の医療提供体制の課題と展望	永 井 良 三 氏（令和 3年 5月例会）
渋沢栄一について語ろう	樺 山 紘 一 氏（令和 3年 7月例会）
「空飛ぶクルマ」開発最前線と実現に向けた課題	
	中 野 冠 氏（令和 3年 9月例会）
見ることの常識が通じない錯視研究の最前線	杉 原 厚 吉 氏（令和 3年10月例会）
日本外交の課題	谷 内 正太郎 氏（令和 3年11月例会）
本の楽しみ、言葉の喜び	阿刀田 高 氏（令和 4年 2月例会）

#### (2) タ 食 会

本年度は次の通り、午餐会と同様に各分野で活躍される多彩な方々による講演会を開催（5月、8月、1月は例年通り休会）しましたが、6月、9月、2月、3月については食事提供を取りやめ、講演会のみで開催に変更しました。延べ705名の参会がありました。

表面科学の奥深い世界	川 合 眞 紀 氏（令和 3年 4月例会）
棺とミイラから古代エジプト文明の謎に迫る	中 野 智 章 氏（令和 3年 6月例会）
地域における芸術文化活動と大学の役割	平 田 オリザ 氏（令和 3年 7月例会）
中央銀行：金融安定を護る「最後の防衛線」－金融危機が残した教訓と将来への課題	
	中 曾 宏 氏（令和 3年 9月例会）
量子コンピュータの現状と将来－量子アニーリングを中心として	
	西 森 秀 稔 氏（令和 3年10月例会）
衆院選総括と政局展望	大 石 格 氏（令和 3年11月例会）

科学技術と共に実現するインクルーシブな未来社会に向けて

浅川 智恵子 氏 (令和 3年12月例会)

波動散乱逆問題の解析解とマイクロ波マンモグラフィの実現

木村 建次郎 氏 (令和 4年 2月例会)

人新世の環境危機と21世紀のコミュニズム 斎藤 幸平 氏 (令和 4年 3月例会)

### (3) 関西茶話会

関西地区の会員を対象とした関西茶話会を次の通り開催し、延べ81名の参会がありました。

第42回「医薬品と食品のはざまにあるものー健康食品ってなんですか？」

伊藤 美千穂 氏 (令和 3年 4月17日)

第43回「文楽に描かれた〈歴史〉ー時代劇と時代物は何が違うのかー」

久堀 裕朗 氏 (令和 3年 7月 3日)

第44回「パンデミックと危機の時代の哲学ー『分解の哲学』を中心にー」

藤原 辰史 氏 (令和 3年10月 9日)

以上の3回は、参加者数を50%に減じて募集し、講演会のみで開催に変更しました。

なお、新型コロナ感染対策のため、開催予定にしておりました第45回は休会致しました。

第45回「言葉を持つ鳥、シジュウカラ」 鈴木 俊貴 氏 (令和 4年 2月19日)

### (4) 見学会等

首都圏及び関西地域において、参加人数制限など新型コロナ感染対策を徹底した上で、以下の通り見学会を開催致しました。

#### [首都圏]

本年度は、新進気鋭の木彫刻家 大竹亮峯氏のアトリエにおいて下記の見学会を開催し、本物と見間違えるほど精巧な作品を目の前で動かしての解説や、作品に使う素材の説明、また関係者以外立入禁止の制作場に特別に入室し、参加者一人ずつの彫り体験を行いました。10名(満員)の参会がありました。

「木彫刻家 大竹亮峯氏アトリエ見学会」 (令和 4年 1月29日)

#### [関西地区]

本年度は約110年ぶりの解体修理が完了した薬師寺の東塔において、工事責任者を務めた松久保伽秀氏(薬師寺執事)の解説付き見学会を開催し、30名(満員)の参会がありました。

「薬師寺国宝東塔 詳しすぎる見学会」 (令和 3年10月30日)

なお、関西学士会において本年度予定していました以下の見学会は、新型コロナ感染対策の観点から開催を中止致しました。

「京都大学大学院薬学研究科附属薬用植物園見学会」ー中止ー

伊藤 美千穂 氏 (令和 3年 5月15日)

「文楽鑑賞教室」ー中止ー

国立文楽劇場 (令和 3年 6月 6日)

## (5) クリスマス家族会（中止）

新型コロナ感染対策により、開催を中止致しました。

## (6) 新年祝賀会

令和4年1月5日、佐々木毅理事長の新年の挨拶、賀宴、米澤賢一会員の謡曲披露の後、春風亭昇吉氏（落語家）による講演会（演題：「落語家というその知られざる世界」）を開催し、130名の参会がありました。

## (7) 学生会員向けイベント

本年度は次の通り、学生会員を対象としたオンラインイベントを、提携協力企業との共催で開催し、延べ28名の参会がありました。

「2023年卒対象 就職活動対策セミナー 1st」 （令和 3年11月 8日）

「2023年卒対象 就職活動対策セミナー 2nd」 （令和 3年12月 6日）

また、コロナ禍で「OB・OG訪問」がままならない学生会員の就職活動を支援すべく、企業等に勤める25歳から35歳の正会員の個人情報（勤務先・職種・入社年・転職経験等）を掲載した【学生会員就職支援用OB・OG名簿】を新たに作成し、学士会会員交流サロン「謝恩の情」に掲載することで、学生会員が掲載者に対して直接、就職に関する質問・相談が出来る体制を整えました。正会員からは57名の登録がありました。

## (8) 若手茶話会

45歳までの会員を対象とした茶話会（「ミニプレゼン会」「読書会」「Do Café」）を、若手会員の集まりである「学士会YELL」が主体となり、各月に開催しました。本年度は全ての回をWeb会議システムにて実施し、延べ264名の参会がありました。

<実施内容の一例>

（ミニプレゼン会）

「国連の「人間開発指数」から学ぶSDGs —環境課題や社会課題に配慮する時代の到来—」

長 濱 和 代 氏（令和 3年 4月25日）

「知らなかった！ではすまされない「知的財産」の基礎知識」

鎌 田 哲 生 氏（令和 3年 8月31日）

## (9) 外部活動への参画

「学士会YELL」の一般向け活動として、NPO法人INFと共同し、北海道の産学官が関わり行われる祭典「No Maps 2021」に参加しました。人と人が繋がる楽しさを考える体験会として実施し、38名の参会がありました。

「『タノシイ』ハジマリミートアップ」

（令和 3年10月16日）

## (10) 良縁企画

28歳～40歳の独身者（会員、及び会員家族）に参加者を限定した良縁イベントを開催し、22名（男性・女性各11名）の参会がありました。募集開始早々に満席となり、キャンセル待ちも多数発生致しました。

### (11) イベント動画配信

コロナ禍により直接参加型のイベント開催が困難な中、少しでも学士会を身近に感じてもらうべく、「学士会主催イベント 動画チャンネル」において、学士会役員による動画「人生最高の一冊」を、会員限定にて配信致しました。

出演：第1弾：佐々木 毅 氏 (学士会理事長／元東京大学総長) (令和 3年 9月17日公開)

：第2弾：山 極 壽 一 氏 (学士会理事 / 前京都大学総長) (令和 3年12月22日公開)

内容：「子供の頃夢中になって読んだ本」、「最近読んで面白かった本」、そして「人生最高の一冊」の計3冊を、その理由と共に紹介する内容となっています。

### (12) Zoom体験会・Webサロン

Web会議システム (Zoom) の機能説明会並びに参加者同士の談話会を開催致しました。合計48回開催し、延べ573名の参加がありました。

また、Webを通じた会員の自主的な交流活動のため昨年度に続き「Webサロン」と、今期9月より女性が参加しやすい会として「サクラ会」の開催補助を行い合計18回の例会を行いました。延べ235名の参加がありました。

### (13) 地域講演会

本年度は、新型コロナ感染対策により北海道地区、名古屋地区はオンライン、東北地区は対面とオンラインのハイブリッド方式で開催しましたが、九州地区は講師都合により、開催中止となりました。

□北海道地区 (オンライン開催) 共催 学士会、北海道大学校友会エルム  
後援 北海道大学

「ポストコロナに向けた新たな北海道づくり」 鈴木 直道 氏 (令和 3年10月16日)  
(参加者：306名)

□東北地区 (ハイブリッド開催) 共催 学士会、東北大学、東北大学萩友会

「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたものの現状と今後の対応の課題」  
賀来 満夫 氏 (令和 4年 2月 5日)  
(参加者：196名)

□名古屋地区 (オンライン開催) 共催 学士会、名古屋大学全学同窓会  
後援 名古屋大学

「AIとスパコンで医療はどう変わるのか？」 森 健策 氏 (令和 4年 2月 4日)  
(参加者：313名)

### (14) ホームカミングデイへの出店 (中止)

新型コロナ感染対策の観点より、ホームカミングデイは、各大学ともオンラインでの開催が相次ぎました。その影響を受け、昨年度に引き続き本年度も本会としてのホームカミングデイへの出店は叶いませんでした。



## (15) ウェルカムビアパーティー（中止）

新卒会員を招待する企画として計画していましたが、新型コロナ感染対策のため中止致しました。

## (16) 学生会員活動支援

学生会員活動支援の一環として、学生会員有志により学士会グッズの制作（以下参照）を行いました。顔合わせからグッズ選定、デザイン考案、業者選び、発注、ツイッターを利用した告知まで、アドバイザー（会員）の協力の下、全てオンラインで話し合いを重ねていきました。完成したグッズは会員はじめ、学士会及び学士会館を懇意にしている方々にも配布し、多くの温かい声が寄せられました。

### ■学士会グッズ（概要）

- ・制作物 温感マグカップ（学士会ロゴマーク入り）100個
- ・コンセプト 受験生をはじめ「目標に向かって頑張っている」方へ贈る
- ・参加学生 令和2年実施「学士会コンペ」準グランプリチーム及びコンペ応募者（東北大学・名古屋大学・京都大学2年、九州大学3年 計7名）

## (17) 提携サービス紹介

提携企業が本会の会員向けに提供する各種サービス（引越し、機械警備、スポーツクラブなど）について、延べ116名の利用がありました。

演劇・コンサートなどを紹介する「鑑賞ツアー」は、新型コロナ感染症の影響により興行数が限られる中、延べ171名の利用がありました。

## 4. 諸会議等

### (1) 通常代議員総会

本年度の通常代議員総会を、令和3年6月24日学士会館において開催致しました。当日の出席代議員36名、書面等による議決権行使代議員56名、合計92名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和2年度事業報告並びに決算報告について
- 議案2 任期満了に伴う理事1名の選任について
- 議案3 任期満了に伴う監事2名の選任について
- 議案4 学士会選挙管理委員会委員 及び 選挙区委員会委員の推薦について

### (2) 臨時代議員総会

本年度の臨時代議員総会を、令和4年3月17日学士会館において開催致しました。当日の出席代議員29名、書面等による議決権行使代議員57名、合計86名の出席により総会が成立し、次の議案を諮りそれぞれ承認可決致しました。

- 議案1 令和4年度（2022年度）事業計画案及び予算案について
- 議案2 学士会館の再開発問題に関する取り組み経緯 及び 今後の対応方針について
- 報告 第四期代議員（任期：2022年4月～2025年3月）の選任結果について

### (3) 理 事 会

本年度は次の通り開催し、諸般の会務について審議決定致しました。

#### □ 4月理事会（令和3年4月22日）

1. 令和3年度通常代議員総会の開催について
2. （第四期代議員選出のための）代議員選挙の実施体制について
3. 令和2年度決算概要について  
併せ、（株）学士会館精養軒の決算概要について
4. 学士会館の再開発問題に関するS社との協議状況について  
併せ、「学士会館再開発委員会」報告（本日午前中に開催）  
報告（1）令和3年度期首会員数及び令和2年度の会員数動向について

#### □ 5月理事会（令和3年5月27日）

1. 令和3年度通常代議員総会の議案について
2. （株）学士会館精養軒の第70期定時株主総会議案について  
報告（1）学士会館の再開発問題に関するS社との協議状況について

#### □ 6月理事会（令和3年6月24日）

- 報告（1）学士会館の営業状況（4月～5月）について  
報告（2）事務局正職員に対する令和3年度夏季賞与の支給について  
報告（3）令和3年度上半期役員報酬の支払いについて  
報告（4）（本日開催）通常代議員総会について

#### □ 7月理事会（令和3年7月15日）

1. 令和3年度・第一四半期（4月～6月）会計報告について
2. S社との協議進捗状況 及び 再開発関連の今後の課題について
3. 第四期代議員選出手続き 及び スケジュールについて
4. 「第60回全国七大学総合体育大会（七大戦）」の中止に伴う主管校への  
寄付金（公益目的支出計画上の公益支出）の扱いについて  
報告（1）令和3年度・第一四半期（4月～6月）の会員数動向等について  
（2）令和3年度後半の理事会等の日程確認について

#### □ 9月理事会（令和3年9月24日）

1. 学士会館の営業状況について
2. S社との共同開発協議の進展と今後の対応について  
報告（1）代議員選挙の実施体制及び実施日程等について  
—第1回「選挙管理委員会」及び「選挙区委員会」の開催報告—  
（2）「地域講演会」の開催準備状況について

#### □ 10月理事会（令和3年10月28日）

1. 令和3年度上半期決算報告 及び 令和3年度上半期資金運用状況報告  
並びに 下半期資金運用計画（案）について  
—併せて （株）学士会館精養軒の令和3年度上半期決算報告—

2. 共同再開発事業に対するS社の回答  
及び(当該回答を受けての)今後の対応方針について
3. 「学士会 今後のあり方検討委員会」の討議結果報告  
報告(1) 会員増強について  
—令和3年度上半期会員数増減報告について—  
(2) 「地域講演会(北海道講演会)」の実施結果報告

□ 1月理事会(令和3年11月25日)

1. 学士会館の10月度営業状況について
2. 令和3年度「臨時代議員総会」の開催について
3. 令和4年度(2022年度)理事会等の会議日程について
4. 学士会館の再開発計画の進捗状況について—口頭説明—  
報告(1) 「地域講演会」の開催準備状況について—口頭説明—  
(2) 代議員選挙の立候補状況(11月24日時点)

□ 1月理事会(令和4年1月27日)

1. 令和3年度決算見通しについて
2. 令和3年度第3四半期(10月~12月) 学士会館の営業状況  
及び (株) 学士会館精養軒の決算見通しについて
3. 令和3年度 臨時代議員総会議題について
4. 学士会館の再開発関連状況について—状況報告—  
報告(1) 第四期代議員選出状況について  
(2) 令和3年度第3四半期(10月~12月)の会員数増減について  
(3) 「地域講演会」の開催予定について

□ 2月理事会(令和4年2月24日)

1. 学士会館の1月営業報告と今期の決算見通しについて
2. 令和4年度 事業計画案について
3. 令和4年度 予算案及び資金計画案について
4. 再開発問題に関する隣地の状況について—口頭説明—
5. 学士会館の再開発問題に関する取り組み経緯 及び 今後の対応方針について  
報告(1) 「地域講演会(名古屋講演会・東北講演会)」の実施結果について

□ 3月理事会(令和4年3月17日)

- 報告(1) 学士会館の営業状況について  
(2) 臨時代議員総会について

#### (4) 監事会

1. 監査法人からの報告
2. 令和2年度決算報告(令和2年4月1日~令和3年3月31日)  
令和2年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び財務諸表の注記の検査
3. 「公益目的支出計画実施報告書」の内容について
4. 代議員総会第3号議案(任期満了に伴う監事2名の選任)について

## (5) 常務会

毎月定期的に常務会を開催し、理事会提出議案の審議等、種々の会務を審議し必要事項を決定致しました。

## (6) 諸委員会

### ア. 会報編集委員会

本年度は次の通り開催し、種々検討・協議の上、各号の執筆候補者を決定致しました。

第1回	令和3年	5月27日	会報第951号
第2回	令和3年	7月15日	会報第952号
第3回	令和3年	9月24日	会報第953号
第4回	令和3年	11月25日	会報第954号
第5回	令和4年	1月27日	会報第955号
第6回	令和4年	3月17日	会報第956号

### イ. 会員増強実行委員会

本年度は次の通り開催し、会員増強に向けての各種施策について協議を行いました。

第32回 令和3年 9月16日 (オンライン併用で開催)

『NU7』については、編集担当委員による内容確認の上で、隔月で発行しています。

また、本年度は、会員増強実行委員会の下に「DX戦略推進部会」を設け、若手会員にも参画を依頼し、月1回程度の頻度で、学士会事業のデジタル化について協議を重ねました。

### ウ. 学士会館再開発委員会

本年度は次の通り合計8回の委員会を開催し、隣地所有者との共同開発に関する検討協議や学士会館の整備・再開発に向けた対応方針等について、具体的な検討を行いました。

第16回	令和3年	4月22日
第17回	令和3年	5月27日
第18回	令和3年	7月15日
第19回	令和3年	9月24日
第20回	令和3年	10月28日
第21回	令和3年	11月25日
第22回	令和4年	1月27日
第23回	令和4年	2月24日

### エ. 学士会 今後のあり方検討委員会

隣地所有者との共同開発にあたり、新たに建築する建物の規模を判断する場合には、将来の学士会のあり方、事業活動のあり方まで合わせて検討すべきであるとして、稲葉延雄理事を委員長、佐々木毅理事長をオブザーバーとする委員会(名称:「学士会 今後のあり方検討委員会」)を新たに立ち上げました。共同開発計画は審議期間中に一旦白紙となりましたが、「学士会のあり方」について検討を行う必要性は変わらないとの判断により委員会を継続し、合計7回開催しました。委員会では特に、「学士会、及び学士会館の事業内容」、「収益基盤の構築」、「新会館の最適規模」、「デジタル化」の4点について精力的に検討を行いました。

第1回	令和3年	4月22日
第2回	令和3年	5月20日
第3回	令和3年	6月21日
第4回	令和3年	7月21日
第5回	令和3年	8月20日
第6回	令和3年	9月21日
第7回	令和3年	10月20日

#### オ. 趣味同好会

令和3年12月1日に撞球、囲碁、将棋、俳句、漢詩、短歌、落語、探訪、謡曲の各同好会の年間優秀会員もしくは功労会員に対して理事長杯を授与し、その後、懇親会を開催し懇談を行いました。

## 5. 会 員

本年度における正会員の増減及び年度末正会員数は次の通りです。\*カッコ内は前年度実績

新 会 員	371名	( 370名)
逝 去 会 員	618名	( 652名)
退 会 会 員	964名	(1, 079名)
会費長期未納退会者	271名	( 249名)
差 引 減	1, 482名	(1, 610名)
現 在 会 員 数	39, 814名	(内 終身会員6, 237名)

(注:「終身会員」の内、戦前に制定された終身会員制度による加入者が312名、平成21年度より新たに制度化された「新終身会員」が5, 925名になります)

学 生 会 員 4, 600名

(注:3月卒業・修了予定の646名を含めた会員数になります)

## 6. そ の 他

本会は、(株) 学士会館精養軒に学士会館の運營業務を委託しておりますが、平成16年2月以降、本会が同社の株式を100%保有しております。同社の概要は次の通りです。

[株式会社 学士会館精養軒の概要] (令和4年3月31日現在)

<input type="checkbox"/> 名 称	株式会社 学士会館精養軒
<input type="checkbox"/> 所 在	東京都千代田区神田錦町3-28
<input type="checkbox"/> 代表者	代表取締役社長 小堀 康生
<input type="checkbox"/> 資本金	10, 000, 000円
<input type="checkbox"/> 売上高	570, 793千円 (令和3年度決算)

(株) 学士会館精養軒の令和3年度の営業結果は、次の通りです。

<input type="checkbox"/> 令和3年度 (令和3年4月1日~令和4年3月31日) 決算	
・ 売 上 高	570, 793千円 (前年度: 380, 394千円)
・ 営業利益	△101, 297千円 (同: △425, 785千円)
・ 経常利益	61, 886千円 (同: △339, 718千円)